

定期報告（ウルグアイ内政・外交・経済：2025年11月）

【ポイント】

<内政>

- 6日、世論調査結果が発表され、政権支持率は40%、大統領支持率は56%。
- 24日、ルステンベルグ保健大臣に対する国会質疑が行われた。

<外交>

- 8日、オルシ大統領はパス・ボリビア大統領就任式に出席した。
- 9日及び10日、ルベッキン外務大臣はCELAC-EU首脳会合に出席した。

<経済>

- 13日に発表された米アルゼンチン貿易協定をウルグアイは楽観視する見方を表した。
- 21日、CPTPP閣僚級会合で、ウルグアイの加入交渉の開始が決定した。

【本文】

1 内政

（1）11月発表の政権支持率

6日、当地主要世論調査会社 CIFRA 社は、政権支持率が40%、不支持率が40%、どちらとも言えないが20%、無回答が5%であったと発表した。同社が9月に発表した前回調査では支持率が43%、不支持が33%であった。3月の政権発足以来、一貫して支持率が不支持を上回ってきたが、今回初めて支持率と不支持率が同数となった。一方、同時に実施されたオルシ大統領に対する親近感調査では、親近感を感じると答えた人は56%で、親近感を感じないは31%であり、大統領個人に対する支持が政権支持率を大幅に上回る結果となった。

（2）ルステンベルグ保健大臣に対する国会質疑

24日、ルステンベルグ保健大臣は下院に招致され、15時間に渡る国会質疑が行われた。野党は、保健省管轄下の公的医療機関である国家保健サービス機構(ASSE)のダンサ長官による複数の兼職が不適切かつ違憲であるとして追及を行った。同長官は、共和国大学医学部教授及び医師会医学誌編集委員会長を兼職（民間病院でも医師として在籍していたが同職については今月頭に辞職した）。野党は、同長官の辞任要求動議を提出したが、賛成過半数に至らず却下された。他方、ルステンベルグ保健大臣を始めとする政府関係者及び与党は同長官への支持を表明し、続投が決定した。

2 外交

（1）オルシ大統領のボリビア大統領就任式への出席

8日、オルシ大統領は空軍機でボリビアを訪問し、多数のラテンアメリカ諸国の大統領等と共にロドリゴ・パス同国大統領就任式に出席した。その際、特派大使と

して同式典に出席していた堀井外務副大臣と立ち話を行い、双方は、日本とウルグアイ並びにメルコスールとの関係強化の重要性について述べた。また、前日、オルシ大統領は、同様にボリビアを訪問中のランド米国務副長官と二国間会談を行った。

(2) ルベッキン外務大臣の CELAC-EU 首脳会合への出席

9日及び10日、ルベッキン外務大臣はコロンビアで開催されたラテンアメリカ・カリブ諸国共同体 (CELAC) - 欧州 (EU) 首脳会合に、オルシ大統領の代理として出席した。開会式で、同外務大臣は、EU と CELAC の双方は、「この2つの地域が歴史、民主主義の信念、人道的開発のビジョンによって結束しており、両者はこの関係と協力を深化させる準備がある」との明確なシグナルを発信する必要があると述べた。また、ウルグアイは2026年3月に CELAC 議長国に就任予定であり、同年9月の国連総会を目指し、具体的な計画を含む CELAC-EU 協力ロードマップを作成する運びである旨述べた。なお、同ロードマップは、環境問題への取組、再生エネルギーへの移行及び地域間協力の推進、貿易・経済関係及び強靱性の強化、そして、国際犯罪組織対策における協力の深化を図る目的で作成される。

3 経済

(1) ウルグアイの CPTPP 加盟交渉入り決定

21日、CPTPP 閣僚級会合で、ウルグアイの加入交渉開始が決定した。外務省は記者会見を開き、国際経済への統合は与野党共通の国家政策であり、政権発足以来、外務次官自らが5度アジアを訪問し、CPTPP 加盟国当局者と協議を重ね積極的なアプローチを重ねてきた成果であると強調した。それに加え、国際情勢の変化、また、ウルグアイの政権交代に左右されない確固たる民主主義及び法の支配を重視する姿勢が基本的価値や原則を共有する国として評価された結果であろうと推察された。また、同加入プロセスを通じ、自由貿易と国際貿易秩序を策定する国々との緊密な関係構築への期待が表された。今後、ウルグアイとアジア太平洋諸国との経済関係強化が見込まれる。

(2) 米アルゼンチン貿易協定に関するウルグアイの見方

13日に発表された米国・アルゼンチン貿易協定に関し、オルシ大統領は、「当然、我々は注意を要する立場に置かれているが、(ウルグアイの) 利益になるかもしれない」と述べ、オープンな姿勢で対処し、新たな展開を受け入れることで、ウルグアイも恩恵を得るだろうと強調した。一方、オドネ経済財務大臣は、ウルグアイの最大の物品の貿易相手国は中国であり、サービス貿易相手国は米国、最大の投資国はスペインを始めとする EU であると指摘し、また、メルコスール内部には二つの異なる意見(当館注: アルゼンチンやウルグアイは、メルコスールの柔軟化により二国間での貿易交渉を認めるべきとの立場である一方、ブラジルは、単独ではなくメルコスールとして交渉すべきとの立場がある。)が対立しており、ウルグアイは非常に難しいバランス感覚が求められると示唆した。また、ウルグアイの取る

べき最善策は、可能な限り世界に開かれた経済を目指し、「レーダースクリーンに映らないよう」目立たたず、あらゆる市場へのアクセスを広げることであり、地政学的情勢を考慮し、ウルグアイの経済的利益を念頭に置いた合理的な判断を慎重に行う必要性を強調した。

4 要人往来

(1) 往訪

- ・ 2日～7日：フラッティ農牧水産大臣のブラジル訪問（米州農業協力閣僚会合）
- ・ 6日～14日：メノニ観光大臣のサウジアラビア訪問（国連観光総会、観光博）
- ・ 7日～8日：オルシ大統領のボリビア訪問（大統領就任式）
- ・ 8日～11日：ルベッキン外務大臣のコロンビア訪問（EU-CELAC 首脳会合）
- ・ 16日～21日：パセイロ住宅土地整備大臣、オルトゥニョ環境大臣のブラジル訪問（COP30）
- ・ 18日：ルベッキン外務大臣のアルゼンチン訪問（二国間外相会談）
- ・ 23日：オドネ経済財務大臣のスペイン、フランス訪問（OECD 関連会合）
- ・ 25日～26日：ルステンベルグ保健大臣のブラジル訪問（メルコスール会合）

(2) 来訪

- ・ 4日、丁薛祥（Ding Xuexiang）中国副首相（オルシ大統領と会談）
- ・ 5日～8日：タヴィオ・フィンランド外国貿易開発相（政策協議、UPM 工場視察）
- ・ 26日：キルノ・アルゼンチン外務大臣（二国間外相会談）